

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 17 日

評価対象事業		評価者	道路課担当課長	齋藤 政徳
都整-19	実施事業	国県道対策事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	主管課 道路課 関連課
総合計画上の位置付け	分野	道路整備	施策の方針	道路・橋りょうの整備・維持管理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	都市計画道路腰越大船線（大船立体）事業の促進を図るため。
効果	神奈川県及び市民等との連絡調整を行うことにより、都市計画道路腰越大船線（大船立体）事業の円滑な実施を図る。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

都市計画道路腰越大船線（大船立体）事業に伴う事務事業の円滑な執行を図った。

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算	01年度(2019年度)決算	データ区分	02年度(2020年度)当初予算	備考
人口等のデータ	人口	176,308人	人口	176,608人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世帯数	81,763世帯	82,444世帯	世帯数	
運営資源状況	事業の対象者数		事業の対象者数		
	決算値(千円)	26	26	当初予算(千円)	24
	国県支出金			国県支出金	
	地方債			地方債	
	その他			その他	
	一般財源	26	26	一般財源	24
	人員配置数	1.0	1.0	人員配置数	1.0
人件費(千円)	8,350	8,317	人件費(千円)	8,325	
事業経費運営	総事業費(千円)	8,376	8,343	総事業費(千円)	8,349
	市民1人当りの経費(円)	48	47	市民1人当りの経費(円)	47
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)	

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、ブルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	2. 統合に向けた検討は可能
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい 今後も市が実施すべき事業か	3. 廃止・休止による影響は大きくある 5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有効性	事業の成果は得られているか	3. 十分な成果が出ている
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
	協働	市民等と協働して事業を展開しているか △.協働未実施 協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒	見直しの種類 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他	見直しの内容 事業へ統合
	予算規模の方向性 <input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 引き続き都市計画道路腰越大船線（大船立体）事業の促進を図るため、神奈川県等と連絡調整を行っていくことから予算規模は現状維持とした。	

総評（評価に対する考え方、根拠等）	事業費は、当該事業の推進に必要な消耗品費だけであるため、削減余地はない。 本事業では、大船立体事業など神奈川県との協体制の中、鎌倉市の費用負担が必要な場合に予算措置することとなっているが、県事業が完了すれば統合は可能である。 本市は、昭和59年度に移管された小袋谷跨線橋の経年劣化にともなう橋の架け替えを早期に実施することを目的に要望書を神奈川県知事宛に提出した。本事業は、市民生活に直接影響する小袋谷跨線橋を再整備するものであり、この事業を推進するため、県・市・住民間の調整を行う事業内容は妥当であり、有効性は4とした。平成29年6月に本線の供用が開始され、令和元年度は台二丁目交差点の移設や歩道整備及び県道302号との接続となる側道を整備、供用を開始した。都市計画決定された県道の整備は完了したが、関連する残工事や、県道の一部を市道に移管に関する事務について、引き続き県との連絡調整を図る。
-------------------	---

令和元年度(2019年度)事業実施にあたっての課題(前年度未解決の事項を含む)	2017年度に大船立体の本線が供用開始された後、2019年度は側道整備、歩道及び階段整備等の残工事を行うが、大船立体の完成後、立体と接続する県道302号の一部が市道へ移管されることとなるため、台川に架かる大船小橋の架け替えや(株)デンカ側に設置された擁壁からの排水処理のほか、道路占用の有無や路面の劣化に係る整備などが課題となっている。	
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	県道の市道への移管に係る課題については、残工事を優先したいとの意向から、整理は行ったものの、現地調査は2020年度に持ち越した。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	2020年度に側道及び階段の工事は完了したが、今後県が実施する予定の隣接歩道の一部整備について、住民調整が終わっていないことが課題である。また、県道の市道への移管に関しては、大船小橋の架け替えに係る関係者との調整が課題となっている。今後現地調査を行い、県及び庁内関係課と調整し事務を進める必要がある。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名									
他市実績									

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容		単位	指標の傾向		備考			
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	
-----------------------	--